次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）
評価項目及び評価の視点

評価項目		評価の視点		公募要領該当箇所	該当ページ
総合評価	S.優れたアントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も大いに期待できる。 A.アントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなる取組みであり、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展も期待できる。 B.アントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとなるためには課題が残されており、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展に向けては相当の努力が必要である。 C.アントレプレナーシップ教育提供コンソーシアムのロールモデルとしては実現可能性が低く、今後のイノベーション・エコシステムの持続的発展は困難である。				
Ⅰ.目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	EDGE-NEXTコンソーシアムとして、設定した目標を達成できたか			
		採択の審査結果通知の留意事項等について対応できているか			
Ⅱ.取組状況	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	コンソーシアムの構築	EDGE-NEXTコンソーシアム内の大学等の連携に相乗効果が認められるか	連携の要件⑤	6
			民間企業、海外機関等とも連携したプログラム提供体制を構築できたか	連携の要件⑥	6
			各大学がアントレプレナー育成とアントレプレナーシップ醸成を全学で総合的に取り組んでいるか	原則とする要件④	6
		プログラムの整備	学部段階からアントレプレナーシップ醸成を促進する人材育成手法が開発されたか	原則とする要件①	6
			座学のみならず、ＰＢＬ手法等を取り入れた実践的なプログラムも含め体系的なプログラムが整備されているか	原則とする要件②、④	6
			プログラムに学部生から大学院生、若手研究者、企業の若手人材まで参加しているか	原則とする要件③	6
			社会へのインパクトが高い起業や大学研究開発成果の実用化、企業課題解決等に繋げるプログラムであり、起業までにつながる実践的なプログラム等による支援が行われているか	原則とする要件①	6
			個別プログラム終了後も受講者や関係者間等で、継続的なコミュニケーションが図られる仕組みが構築できているか	その他の要件⑫	7
		ベンチャー・エコシステムの形成	協力機関や参加機関と連携したプログラムを実施し、ベンチャー・エコシステムの構築を目的とした、価値創造プラットフォームの形成が実現できたか	連携の要件⑥、⑧	6,7
			海外機関等との連携により、我が国全体のアントレプレナー育成システムの高度化を図り、新しい価値を生み出すとともに、世界トップレベルのプログラムが構築されているか	連携の要件⑦	6,7
		人材育成	多様な受講者層の確保、受講者数の拡大が図られたか	定量的要件⑨	7
			起業にチャレンジすることが可能なレベルの人材育成とロールモデル創出ができたか	支援の対象となるプログラム例	3
Ⅲ.計画・改善手法の妥当性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	資金計画	補助金の使途は適切かつ効果的であるか	審査の観点④	17
			各年度で「外部資金導入目標率」を達成しているか	定量的要件⑩	7
		PDCA	客観的な情勢の変化を踏まえつつ、進捗状況の評価、改善が適切に行われたか	その他の要件⑪	7
Ⅳ.今後の見通し	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	継続性	大学経営層のリーダーシップの下、補助事業期間終了後も長期的に継続することが可能な体制を構築しているか	その他の要件⑬	7
		波及効果	他機関の人材育成プログラムに良い影響を与えたか	審査の観点③	16

注釈：「所期」は「採択後修正された申請書の内容」のこと